

令和六年度 世界遺産

# 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

## 公開講座

### 第1回 「世界遺産と持続可能な観光」

定員 100名

令和7年1月29日(水) [申込締切 1月15日(水)]  
アクロス福岡 円形ホール  
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-1-1

### 第2回 「加耶と沖ノ島」

定員 180名

令和7年2月15日(土) [申込締切 2月1日(土)]  
九州国立博物館 ミュージアムホール  
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂 4-7-2

### 第3回 「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」

定員 50名

令和7年3月8日(土) [申込締切 2月22日(土)]  
海の道むなかた館 講義室  
〒811-3504 福岡県宗像市深田 588番地

- [日時] 令和7年1月から3月まで(全3回)  
[主催] 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会  
[共催] 九州国立博物館  
[お申し込み] HP から専用フォームにて要事前申込。受講費は無料です。開催日の14日前までにお申し込みください。定員を超えた場合は抽選。当選者には開講日の7日前までにメールでお知らせします。全講座は、後日公式ウェブサイトで動画配信します。  
<https://www.okinoshima-heritage.jp/>  
[お問い合わせ] 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会(事務局:福岡県九州国立博物館・世界遺産室)  
〒812-8577 福岡市博多区東公園 7-7  
TEL 092-643-3162 FAX 092-643-3163  
E-mail: sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp



## 第1回

## 「世界遺産と持続可能な観光」

世界遺産の観光について、UNESCOは「質の高い体験を提供するだけでなく、資産の保全に利益をもたらす、持続可能な開発とすること」を求めています。

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群を核とした持続可能な観光を実現するために、私たちが取り組めるものは何でしょうか。

これまで様々な形で遺産の観光・まちづくりに関わってきた有識者を招き、本遺産群が調査研究の蓄積により深化してきた価値についてどのように世界的な観点から発信していくのか、そしてそれを「持続可能な観光」として、どのように地域社会の課題解決につなげていくのか、世界遺産と持続可能な観光のあり方について考えます。

定員 100名

令和7年1月29日(水) 13:30-16:30 [申込締切 1月15日(水)]  
アクロス福岡 円形ホール  
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-1-1

## 「地域と観光創造」

西山 徳明 北海道大学 教授

## 「世界遺産宗像・沖ノ島とまちづくり」

大森 洋子 久留米工業大学 教授

## 「文化遺産と観光：東南アジアの事例」

田代 重紀子 北海道大学 准教授

## 「風景のインタープリテーション：台湾の事例」

仲間 浩一 (一社) リージョナル  
インタープリテーション協会 代表理事

## パネル・ディスカッション

## 「世界遺産と持続可能な観光

—世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群のこれから—

司会 正田 実知彦 福岡県九州国立博物館・世界遺産室

## 第2回

## 「加耶と沖ノ島」※同時通訳

3世紀から6世紀、朝鮮半島南部に存在した連合国加耶。沖ノ島での祭祀を行った古代ヤマト王権がもっとも緊密に交流した地域の一つです。とりわけ、金官国(金海市)は、豊富な鉄資源を持ち、3世紀から4世紀にかけて、「古金海湾」を交易の拠点として、海を介したネットワークを築いていきます。古代宗像氏と同じく海上を舞台に活躍した「海の民」である金官加耶は、やがて加耶諸国を主導していき、5世紀に大加耶国等へ引き継がれ、6世紀後半まで存続します。古代において最も近い国であった「加耶」、また加耶をはじめとする朝鮮半島や中国大陸との国々の交流を背景に祭祀が行われた「沖ノ島」。最新の調査研究から、古代東アジアにおける二つの世界遺産の実像に迫ります。

定員 180名

令和7年2月15日(土) 13:00-16:30 [申込締切 2月1日(土)]  
九州国立博物館 ミュージアムホール  
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂 4-7-2

## 「世界文化遺産 加耶古墳群について」

宋 源永 大成洞古墳博物館 館長

## 「沖ノ島祭祀前夜の日韓交流」

李 昌熙 大韓民国釜山大学校 教授

## 「沖ノ島祭祀開始期の日韓交流」

高田 貫太 国立歴史民俗博物館 教授

## パネル・ディスカッション

## 「加耶と沖ノ島」

司会 太田 智 宗像市世界遺産課

## 第3回

## 「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」

九州本土から60km離れた沖ノ島。4世紀から9世紀にわたり東アジアとの交流の成就と航海安全を祈る祭祀がこの島で行われました。祭祀では朝鮮半島や中国大陸からもたらされた貴重な品が捧げられ、沖ノ島祭祀遺跡から出土した奉獻品は8万点に上ります。古代東アジアの国家間の重要な交流を示す物証として世界的な価値が認められた奉獻品、その中でも特徴的な遺物である鏡、武装具、金属製品、滑石製品に注目し、今日的な視点から再検討することにより、沖ノ島祭祀の実像に迫ります。

定員 50名

令和7年3月8日(土) 13:30-16:30 [申込締切 2月22日(土)]  
海の道むなかた館 講義室  
〒811-3504 福岡県宗像市深田 588番地

## 「滑石製品から沖ノ島祭祀を考える」

河野 一隆 東京国立博物館

## 「鏡から沖ノ島祭祀を考える」

辻田 淳一郎 九州大学 教授

## 「武装具から沖ノ島祭祀を考える」

橋本 達也 鹿児島大学博物館 教授

## 「金属製品から沖ノ島祭祀を考える」

水野 敏典 檀原考古学研究所

## パネル・ディスカッション

## 「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」

司会 岡寺 未幾 福岡県九州国立博物館・世界遺産室